

広域道路網を活かして 未来に向かって輝き続ける都市



平成32年度(2020年度)新東名高速道路が開通予定

新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路等)など広域交通ネットワークの整備をさらなる発展への新たな好機と捉え、丹沢の水と緑に生まれ人が輝き躍動する交流都市を目指します。また、東名高速道路秦野中井インターチェンジに加え、新東名高速道路とのダブルネットワーク化による「(仮称)秦野インターチェンジ」、さらに「(仮称)秦野サービスエリア・スマートインターチェンジ」を活用し、観光・産業振興、企業誘致を進め、地域資源を生かしたまちづくりを推進します。

新東名高速道路の建設が着々と進んでいます



羽根トンネル(西側坑口)では、今後本格的な掘削工事に向け、準備工事を進めています。

また、(仮称)秦野インターチェンジ工事や(仮称)秦野サービスエリア工事など、契約手続きを進めています。



羽根トンネル(東側坑口)では、上り線側の掘削工事が約900メートル進んでいます。先日、東地区新東名対策協議会や自治会の方々を対象に工事の進捗状況や、作業の安全性を確認していただくため、現地見学会を開催しました。(掘削工事は、11月1日現在)



たばこまつりや市民の日において、NEXCO中日本(秦野工事事務所)と協力し、高速道路、サービスエリアに期待することについて市民の皆さまの声をお聞きするアンケートやパネル展示を実施するなど、新東名高速道路のPRに努めています。

厚木秦野道路(国道246号バイパス)の整備について

昨年度に(仮称)伊勢原西ICから秦野中井ICまでの区間(5.2キロメートル)が事業化され、国(横浜国道事務所)において、測量などが実施されています。



スマートインターチェンジは平成32年度(2020年度)の新東名高速道路との同時開通を目指しています!



どこにできるの?

現在事業中の新東名高速道路の(仮称)秦野サービスエリア(上り線は戸川地区、下り線は横野地区)に設置されます。

だれが使えるの?

E T C 車載器を搭載した全車種(全長12m以下)が利用できます。24時間、東京・静岡の両方面に出入りが可能です。

スマートインターチェンジってなに?

スマートインターチェンジは、高速道路本線やサービスエリア、パーキングエリアなどから乗り降りできるように設置される、ETCを搭載した車両に限定した簡易的なインターチェンジです。



新東名のスマートIC事例

秦野SAスマートインターチェンジの主な整備効果

どんな効果があるの?

スマートICが整備されることで**広域的な交通利便性**が飛躍的に向上し、**産業基盤の強化、観光資源を活用した地域活性化、救急・救命サービスの向上、災害時の支援体制の強化**など、さまざまな効果が期待されています。

産業基盤の強化

曾屋原と堀山下の工業集積地はIC5km圏内となり、アクセス時間が大幅に短縮されます。

東名と新東名とのダブルネットワーク化により、東名秦野中井IC、新東名秦野IC、秦野SAスマートICを活用した、観光・産業振興、企業誘致を進め、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。



観光資源を活用した地域活性化

いちご狩りやブルーベリー摘み、落花生やさつまいもの掘り取りなど、季節に応じた観光農業の集客が拡大し、地域の活性化が期待されます。



救急・救命サービスの向上

市北部地域から救急救命センター(東海大学附属病院)への搬送時間が約4分短縮(20分→16分)し、生存率の向上や患者の負担軽減などが期待されます。



災害時の支援体制の強化

高速道路から自衛隊災害派遣部隊の活動拠点(島津製作所秦野工場)や、消防応援部隊の活動拠点(秦野戸川公園)とのアクセス距離が短縮します。

※新東名高速道路の「秦野IC」、「秦野SA」、「秦野SAスマートインターチェンジ(IC)」は仮称です。